

審査員紹介



小川 修さん

◆ おがわ おさむ
 1941年 大阪府生まれ。
 1959年 石川県立工芸高校
 図案科卒業。丸越デパート
 宣伝部入社。1963年 大和
 デパート 宣伝部入社。
 1965年 広告代理店 日本
 交通事業社嘱託。1971年
 (株) 小川デザイン事務所
 設立、現在に至る。■仕事:
 主にグラフィックデザイン。



中 乃波木さん

◆ なか のはぎ
 写真家、イラストレーター、エッ
 セイスト。2019年3月に小説「い〜じ〜大波小波」出版(ロクリン社刊)。写真集「Noto」発売中(F O I L 刊)。能登で暮らした母との悲喜こもごもなフォトエッセイ「大波小波」を雑誌「能登」にて2010年より好評連載中。能登町ふるさと大使、いしかわ観光大使。

協力：日本リアリズム写
 真集団石川県支部



鶴彬の川柳を題材にした
ホスタ―募集

ポスター作品展示会
 9月11日〜17日 (まちかど交流館)
 9月18日〜20日 (高松産業文化センター)
 表彰式 9月19日 (高松産業文化センター)

鶴彬
 つるあきら

募集要領

- ◆ 内容 鶴彬の川柳1句をのせたポスター
- ◆ 規格 大きさ：A3
- ◆ 種類 ①手書き部門 ②電子データ部門
 それぞれに { A：一般(高校生以上)の部
 B：こどもの部
- ◆ 応募期間 2021年7月1日(木)〜8月16日(月)
- ◆ 応募方法
 ①手書き：ポスター受付へお届けください。(郵送可)
 ②データ：ポスター受付へメール (CD-Rで郵送可)
 《ファイル形式：jpg、gif、bmp、ai、pdf》
- ◆ 表彰：各部門に大賞、秀作、佳作、特別賞を用意。
- ◆ 発表：9月12日「第23回鶴彬をたたえる集い」にて
- ◆ 展示会：9月11日(土)〜17日(金)まちかど交流館
 18日(土)〜20日(月)高松産業文化センター中ホール
- ◆ 表彰式：9月19日(日)高松産業文化センター
- ◆ その他：作品の著作権は応募者に帰属しますが、主催者の活動に利用することをご了解ください。
 ・別チラシに鶴彬の代表的な川柳作品を紹介してあります。ポスター制作の参考にして下さい。
 ・電子作品は、日本リアリズム写真集団石川県支部の協力で高画質写真プリントされます。後日、応募者に贈呈いたします。

ポスター受付 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30(3-2) 渡辺
 メール：kananabe@popolo.org / kankan.wata@gmail.com
 ◆ 問い合わせ：090-9445-1302 (ショートメール可)

鶴彬通信

はばたき

第37号
 2021年4月30日
 鶴彬を顕彰する会

もくじ

⑬面	⑨面	④面	②面
⑩面	⑫面	⑧面	③面
2021年度事業活動方針	武田裕一 読書リレー(第一回)	宇部功氏 特別授業の感想文Ⅲ	寺内徹乗 東野大八という川柳人
編集後記	鶴彬・交流の広場		かほく市民川柳祭 鶴彬川柳大賞作品募集 鶴彬のパネル展

第八回かほく市民川柳祭について

二〇〇八年に映画鶴彬「こころの軌跡」が製作され、予想外の反響を呼び自主上映ながら全国展開が続けられた。その高まりを持続する為に地元でどんな活動が必要かという議論が顕彰会で行われた結果、「高松歴史街道フェスティバル」が企画実現した。更にこの中にかほく市民を対象とした「市民川柳祭」を二〇一二年から加えて、かほく市の川柳文化定着に力を注いで来た。特に小中学生が川柳に親しむよう教育委員会に協力を要請し、小学校六校中学校三校の生徒から作品を募集、今ではフェスティバルの中心行事になっていることである。

残念ながら昨年はコロナ禍の為に、さまざまに中止に追い込まれ一年延期の今年になったが、まだコロナの感染終息は見えない状況であるとはいえず、何とか「市民川柳祭」の開催にこぎ着けたいと考えている。

第九回「鶴彬のふるさと」

高松歴史街道フェスティバル

期間／九月十一日から九月二〇日

①第四回「墓碑法要の集い」

期日／九月十二日(日) 午前十時～十時半

会場／浄専寺

②第二十三回鶴彬をたたえる集い「碑前祭」

期日／九月十二日(日) 午前十一時～十一時半

会場／歴史公園

③第八回かほく市民川柳祭

期日／九月十九日(日)

会場／高松産業文化センター中ホール

受付／午後一時

開催／午後二時より表彰式

*あんどんの灯りで入選作品展示

*写真・ポスター展 十一日～二〇日

*尚、3月24日顕彰会の事務局会議が行われ、川柳祭のテーマは小・中学生の部「あこがれ」、一般の部は「コロナ」に決定した。要綱については早急に作成することとした。

④鶴彬演劇の映画上映

期日／九月十一日(土)

(詳細未定)

鶴彬川柳大賞について

第26回鶴彬川柳大賞の募集が今年も行われる。昨年はコロナ感染が騒がれている中で募集であった為に大変気を揉んだが、応募人数は227名454句に達した。その大きな要因は前年から選者に大阪の岩佐ダン吉氏、東京の植竹団扇氏、岩手の佐藤岳俊氏を迎えて、全国の鶴彬川柳ファンに本腰で強いメッセージを発したからだと思う。今年はその姿勢をもう一歩前に進めたいと埼玉の高鶴礼子氏に選者をお願いした結果、快くお引き受け

いただいた。従って今年の選者は石川県川柳協会会長の赤池加久氏とかほく市民川柳協会から遠田亀公子が加わり6名になる。これで一つ今までにない「鶴彬川柳大賞」の基盤が出来たと思う。

「川柳大賞」の歴史を紐解いてみると、鶴彬に心血を注いだ「和」川柳社の岡田一杜さんの姿が浮かび上がる。金沢市の卯辰山に鶴彬の最初の句碑(暁を抱いて闇にいる菫)建立に尽力された人である。一杜さんは柳誌「和」を通じ鶴彬川柳を喧伝するだけでなく、その今日的意義を説き続けた。当初から「川柳大賞」に関わって来たのも当然である。

2008年映画「鶴彬—こころの軌跡」が製作完成し全国展開されるや、それが大きなうねりになり鶴彬の存在がクローズアップされた一方で「川柳大賞」は残念ながらその波に乗れずにいた。機会を失っていた所へ鶴彬研究会で泉鏡花市民文学賞を受賞し鶴彬を顕彰する会の黒柱であった深井一郎さんが逝去、続いて岡田一杜さんが、更には地元高松で川柳会の活動を支え、同時に「川柳大賞」にも尽力して来られた橋爪無声子さんまで亡くなられてしまった。

こうした経緯の中で先人の意志を引き継いで行くには並大抵の努力では叶わないかもしれないが、何とか知恵を出し合いながら私達も前を向いて行こうとしているので、是非、皆様のご協力をお願いします。

「鶴彬川柳大賞」の要綱は別紙の通り、奮ってご参加ください。お待ちしております。

(文責遠田)

第二十六回『鶴彬』川柳大賞

自由と反戦をつらぬいた魂の川柳作家『鶴彬』。彼の思いを受け継ぐ川柳を全国から広く募集します。

主催 鶴彬を顕彰する会

かほく市川柳協会

後援 かほく市教育委員会
かほく市文化協会
(一社)全日本川柳協会

石川県川柳協会

和川柳社

北陸中日新聞

募集要項【作品募集】

●作品内容

「現代を鋭く風刺した、新しい感覚の川柳」

●選者

赤池 加久 (石川県川柳協会会長)

岩佐 ダン吉 (大阪あかつき川柳協会会長)

植竹 団扇 (東京川柳成増吟社会長)

佐藤 岳俊 (岩手岩手県川柳連盟顧問)

高鶴 礼子 (埼玉川柳誌「エマ・ノエシ」主宰)

遠田 亀公子 (かほく市川柳協会幹事)

●応募規定

①自作の未発表作品に限ります。応募資格は問いません。

②応募用紙は自由、楷書で明確にお書きください。応募点数は一人二句以内とします。

③二重投句、また投句後の作品の訂正、差し替えはできません。また、同一作品、酷似作品が先行して発表していた場合は、入選・入賞を辞退していただきます。

④氏名、住所、性別、電話番号を明記してください。雅号の場合は本人名を併記。

⑤作品の返却はしません。*入賞作品の使用権は主催者に帰属するものとします。

●投句料

一人金10000円

*代金は小為替で(切手不可)作品に同封してください。

●応募期間

2021年6月20日(日)～7月31日(土)

当日消印有効

●選考方法

各選者の持ち点数を加算した総合計点により順位を決定します。

●賞表彰

1 鶴彬大賞 (1句)

表彰状・かほく市特産品 (一万円相当) 贈呈

2 優秀賞 (3句)

表彰状・かほく市特産品 (五千円相当) 贈呈

3 佳作賞 (5句)

かほく市特産品 (三千円相当) 贈呈

4 入選賞 (若干)

記念品贈呈

●発表

9月12日(日)「第23回鶴彬をたたえる集い」

碑前祭会場で発表。投句者全員に、後日、入賞・入選作品の発表誌を送付いたします。

●応募先

〒929-1195

石川県かほく市高松ク42番地

かほく市高松公民館

第26回「鶴彬川柳大賞」公募係 宛

●問合せ先

かほく市川柳協会 事務局 小山広助 気付

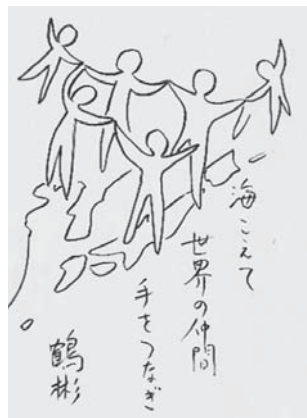
TEL・FAX/076-281-1201

携帯/090-4323-1754

E-mail/turukira@yahoo.co.jp

鶴彬ポスター展 開催予定

例その1 (手書き部門)



例その2 (電子データ部門)



※上の例は、あくまで参考作品です。上の例にはとられず、凝った作品から初心者の作品まで、広く個性的な作品を募集いたします。

◆募集要領

サイズ A3 (A2も歓迎)

「手書き部門」(絵・イラスト)と「電子データ部門」(写真加工)があります。

それぞれ一般(高校生以上)の部、子どもの部があり、大賞、秀作、佳作の他、特別賞を用意する予定です。

※作品には鶴彬の川柳を記載して下さい。

締め切り8月16日。投稿先は表紙参照。

作品は、9月11日～9月20日の期間展示

され、場所は表紙参照。優秀作品は「は

ばたき」にも掲載します。

ばたき」にも掲載します。

ばたき」にも掲載します。

ばたき」にも掲載します。

ばたき」にも掲載します。

手をもがれ かえされた 東野大八という川柳人

鶴彬を顕彰する会・幹事 寺内 徹乗

鶴彬は「手と足をもいだ丸太にしてかへし」と詠んだ。鶴彬は戦場に行ったことはないが、想像力を駆使し、川柳を詠んだ。鶴彬は心底戦争を憎み、誰も戦争で死なせたくなかった。だから鶴彬は、戦争に逸る日本人に向かって「馬鹿なことは止せ」というメッセージを川柳でもって発した。自らの身の危険も顧みず。

鶴彬の死からおおよそ7年後、実際に中国の戦場で腕をもがれた兵士の詠んだ川柳が残る。

寂しきは手のない袖に風が吹く

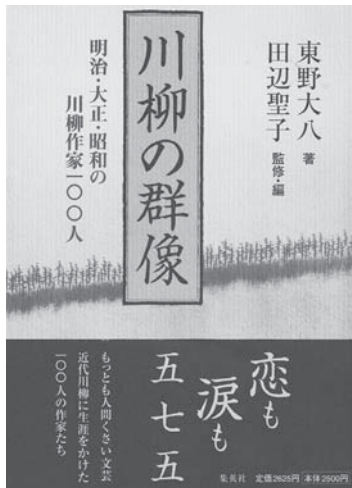
これを詠んだのは、東野大八（とうのだいはち）（一九一四年～二〇〇一）である。川柳を学んだことのある人ならば『川柳の群像 明治・大正・昭和の川柳作家100人』（以下『川柳の群像』と記す）の著者だと言えば、ピンと来るだろう。

前号の「はばたき」36号で、黒野こうきさん（画家・詩人・地方史研究家・大八文庫代表）の「日川柳の川柳 貫き通した鶴彬」という記事の中で、東野大八が登場した。大八

さんは黒野さんに「黒野君、鶴彬は川柳界の宝物、宝石だよ」とおっしゃり、大八さんが貸してくれた鶴彬の本を読み涙があふれたというエピソードだったので、私はここで東野大八という人物をあらためて紹介しようと思いついた。

東野大八は、一九一四年（大正3年）愛媛県大洲市生まれ。大洲は伊予の小京都と呼ばれることもある、小さな盆地にある城下町だ。大八は高等小学校卒業後、大阪へ行き、『大阪新聞社』に入社。その後、満州独立守備隊に入営。除隊後、「月間満州」「新京日日新聞」「蒙疆新聞」で記者をしながら、大嶋涛明、石原青竜刀らと柳誌「東亜川柳」の設立同人となる。

一九四四年（昭和19年）、北京でささやかな結婚式をあげ、現地招集で出征。一九四五年四月一日、洛陽作戦中、迫撃砲弾で被弾し、左手を失った。戦後日本に帰国。『岐阜日日新聞』で記者をしながら、柳壇でも活躍し、日本川柳協会顧問も務めた。陶芸にも興味を持ち、「陶芸時事新報」を手掛け、日本陶芸



巨匠大展をプロデュースし成功させた。また、『川柳の群像』の他、『風流人間横丁』『人間彩影記』なども著した。二〇〇一年、81歳で死去する。

著書『川柳の群像』では、自身について何一つ語っていない。しかし、中村義著『川柳の中の中国 日中戦争からアジア・太平洋戦争まで』の中に、大八について人生や川柳が紹介されている。

大八が赤紙を貰って北京駅から山東省路安に向かったときに詠んだ句は、嫌々ながら戦争に行かなければならない諦めや悲しみが読み手に伝わってくる。

征くわれの顔新妻がまたみつめ 大八
あきらめて映す夜汽車の窓は雨 大八

次は、洛陽戦線で迫撃砲弾に被弾したときの川柳である。

白い腕ぶら下げ戦車燃えつづく 大八
足首の詰まった軍靴飛び来る 大八

血が通わなくなった自分の左腕は宙ぶらりんになり、千切れそうになっている。戦友の足は完全に千切れ、大八のもとに飛んできたのだろうか。そんな光景が目には浮かぶ。痛々しい。

次は、民家の牛小屋を改造した傷兵収容所

での光景。

地雷だよ戦盲の彼こともなく

こときれた男の髪マユの青々と

大八 大八

青々としているのは髪ではなく髭だろう
か。医療物資も十分でない収容所では重症者
も遺体も密集しあい、唸り声や異臭までもが
感じられる。

まもなく大八は陸軍病院で片手切断の手術
を受けた。大八は痛みに苦しみながら護送さ
れた。

指五本肩のとがりを探りあて
ふるさとが待つと小声で軍医いう

大八 大八

生き残った右手で、無くなった左腕の付け
根を確認している様子はなんとも切ない。

次は、天津の抑留所で帰国を待ちのぞみな
がら暮らしていたときに詠んだ川柳。

引き上げの眼に花だけが美しい
寂しさは手のない袖に風が吹く

大八 大八

助かったという安堵感と、腕を失った虚し
さが混在した複雑な心境が読み取れる。本来
腕のあるはず場所に、風がスースー通り過ぎ
るのを感じ、ああ、本当はないのだなと実感
している。

大八はこれら、リアルな戦争川柳を検閲に

見つからないように、極小の皮手帳に記録
し、川柳は靴包みに隠し日本に持ち帰った。
大八は鶴彬のように日本人たちに戦争反対を
訴えるためではなく、おそらくは自らの精神
を、川柳を書くことよって癒すために書き
記したものだろう。だがこれらの句は、鶴彬
の句同様、あるいはそれ以上にリアルなもの
として、戦争の残酷さについて私たちに教え
てくれる。

大八が故郷の愛媛県大洲に帰ったとき、老
いた母親は片手をなくした息子を見るなり格
子戸をつかみ号泣し、「失くなった片方の手
を東条に還して貰って来い」と言ったとい
う。

大八は帰国後に次のような句も詠んでい
る。

幸せを母のいびきの横で知り

大陸に残る片手も淋しかる

大八 大八

大八が中国の戦場で詠んだ句は、自身の心
情を詠み、公表することもなく、来るべき時
が来るまで自らの胸の中にそっと秘めたもの
であった。

これとは対照的に、検閲を通り抜け、日本
の柳誌に発表された兵士たちの川柳も残る。
鶴彬が本土で「手と足をもいで丸太にしてか
へし」などの6句を発表し発禁となった

一九三七年(昭和12年)、すなわち日中戦争の勃
発した年に詠まれた戦場の川柳が次のものだ。

便衣隊生捕りにして手をやかせ 百羽(『番傘』)
日本刀抜くには惜しい便意隊 暁月(『番傘』)

便衣隊(便衣兵)とは民間人の格好をし、
ゲリラ戦をしていた中国兵の蔑称である。当
時日本軍では、新兵が殺人を慣れるために、
度胸試しと称し、中国人の捕虜を刀で切り殺
すことが日常化していた。また、どちらが先
に早く切れるかという「百人切り競争」とい
う虐殺も行われ、その記事が「東京日日新
聞」などでも報道された。極めつけは、日本
軍が組織的に何万という老若男女の中国人捕
虜を長江の河原に並べ、機関銃で撃ち殺すと
いう大虐殺(南京事件)もあった。この歴史
の有無について、歴史から目を背けたい人た
ちの中で「南京事件はなかった」という議論
まであるが、多くの証言者がいて証拠写真も
残っているのだから、否定する論拠はない。
戦争では当たり前のように人間が人間を殺
す。正気であれば、人間は人間を殺せない。
だから当時の日本兵たちは鬼となり、中国人
を人間以下の存在として見下し、その上で虐
殺した。これらの句もまた、戦争のリアルを
伝えている。

日中戦争が泥沼化していた一九三九年(昭
和14年)〜一九四〇年(昭和15年)の句。

逃げ方を考へて来る便衣隊

工たくみ(『番傘』)

抗日の文字が下手糞だと嗤ひ 柗(『番傘』)

殺さねばならない敵へ飯をやる 柗(『番傘』)



皇紀二千六百年を祝う
大政翼賛会のポスター

逃げ延びて敵も仰いでゐる秋日

異門斗 (『番傘』)

対陣の敵の歩哨と顔馴染 大道双車 (『番傘』)

この時代、日本本土では好戦的な雰囲気だった。昭和15年、日中戦争を拡大させた近衛文麿首相が再登板し、ヒトラーと手を結び(日独伊三国同盟)、日中戦争は第二次世界大戦へと発展した。またこの年、神話上の初代神武天皇の即位から二千六百年だとされ、紀元二千六百年記念行事が国策として催され、お祭り騒ぎだった。

ヒトラーあすを背負って立ってゐる

光庵 (『番傘』)

ヒトラーやっぱり強い話題なり

紫陽 (『番傘』)

指さした通りに動くヒトラー

南都 (『番傘』)

西暦を忘れた二千六百年

歴青 (『番傘』)

偉大なる歴史へ歩む近衛公

三重定志 (『番傘』)

当時、多くの日本人は、経済的にも軍事的にも米国や英国には及ばないとは分かっていたが、それでも日本は戦争に敗けないと確信していたようだ。その根拠は大雑把にいえば、①日本が天皇を頂く「神の国」であり、②日本人には欧米人にはない大和魂(根性)があり、③ヨーロッパで勢いのあつたナチス・ドイツと軍事同盟を結んだという3点に尽きよう。現代のわれわれの目からすれば荒唐無稽で、よくもまあそんな理由で戦争を続けたものだと思えるばかりだが、現代の私たちが当時と同じ轍を踏んでいることを思えば、笑えない。

「日本は神の国」と言い放つた元首相が東京五輪委員長に就いた。彼は女性蔑視発言で委員長を辞めることにはなつたが、首相をはじめ五輪関係者の幹部は、東京オリンピック開催を「コロナに勝つた証」だとして、精神論でもって東京オリンピック成功に向けて突っ走っている。コロナ収束の見通しも立たないにもかかわらずだ。

くしくも昭和15年、東京オリンピックが開催される予定だった。しかし、日中戦争の拡大により開催されることはなかった。今年が開催困難なオリンピックの年という偶然はあるが、当時は今よりも重苦しく、しかも今よりもお祭りのな空気が漂っていたことだろう。そんな中で、鶴彬の平和を願う声は戦争に熱狂する国民の声の中にかき消されていった。その後、日本は滅びへの戦争に突き進んでいくことになったのは、言うまでもない。

さて、東野八大の話に戻そう。八大の戦争に対する立ち位置はどうだったのか。

八大は鶴彬のように積極的に反戦を訴え逮捕される人生は選ばなかった。しかし、自らが皇軍の一員であることを誇り、中国人たちを見下し、勇ましく戦っていた兵士たちとは一線を画していた。それは記者としての目と、外地から冷静に日本を見る目を兼ね備えていたからかもしれない。

戦後、八大は『人間彩影記』の中で回想している。一九四一年(昭和16年)四月、八大はM新聞社のKと上海で会ったとき、Kは八大に次のように語った。

いよいよアメリカと戦争だよ、・・・やればどうかって、そりや負けるよ。だから日本がそんな無茶なことをしてかさないようにわれわれは考えとく必要があるんだがそのテはしかし無さそうさ。——中略——

日本は敗れない、君はそう思うだろう。おれだって同じだ。だがね、日本は絶対負けないという裏付けは何もない、考えているとすれば日本人だけだよ。紀元二千六百年の歴史が一体なんだというんだ、とにかくお互いこの困った時代からどう身を護っていくかということは今こそ真剣に考えるべきだよ。

これはK(満州日日新聞の川村徹支局長)の言葉として語られているが、これは八大自身の当時の心境としても読み取れる。とにかく

く、どうにもならない大変な時代から身を護り、戦争が終わるまで生き抜いてやろうと思っていたに違いない。

余談だが、Kはこの面会の後まもなく、ゾルゲ事件に巻き込まれ捕らわれ、凄まじい拷問の末に発狂・獄死し、妻子は離散した。戦後、大八はNHKラジオの「訪ね人」にもかかわらずKの妻子を探したが、見つからなかったという。

ゾルゲ事件とは、一九四一年十月、ソ連のスパイだったゾルゲに近衛文麿首相のブレンだった元朝日新聞の記者・尾崎秀美が国の機密情報を渡していたことが発覚した事件である。後にゾルゲと尾崎は死刑となった。

大八は戦後、川柳史を研究し、一九八二年から二〇〇一年に亡くなるまで、柳誌『川柳塔』に「川柳の群像」のコーナーで明治から昭和にわたる主要な川柳作家の連載を始めた。その数、二百数十人。その中には、当然、鶴彬も入っているし、鶴彬と縁の深い川柳作家も登場する。例えば、鶴彬の師・井上剣花坊、その妻、井上信子、その娘の大石鶴子。十六歳の鶴彬少年を高く評価し、後に最大の論敵にもなった田中五呂八。鶴彬と同郷で鶴彬をプロレタリア川柳に導いた森田一二。これらの評伝が大八の死後、田辺聖子の監修により、書籍となったとき『川柳の群像』は二百数十人から百人に絞られたが、そ

の中にも鶴彬と縁の深い川柳作家たちは残り、彼らの評伝の中にも鶴彬のことは何度も登場している。その中でも、当時鶴彬は戦前の川柳界の中で、大きな足跡を残していたことが分かるし、80年以上たった現在の私たちにも大きな足跡を残している。

『川柳の群像』での、大八の鶴彬への論評を一部紹介する。

鶴を少年期から獄死するまで強烈なマルクス主義的プロレタリア川柳に駆り立てたものは、大正期から昭和初期にかけての悲惨な時代環境にあった。米騒動と東北大飢饉による婦女子の売買。第一次世界大戦後の大不況による世界恐慌のあふりをくって労働争議の頻発、結党直後の日本共産党への大弾圧、関東大震災の天災下に大杉栄の虐殺事件。そして満州事変の勃発から日中戦争へと突入する。

鶴の残した九百句のプロレタリア川柳は、軍国的ファシショ化の為政者側への呪と、暗黒時代環境に喘ぐ庶民たちへの惻隠鎮魂の心情に彩られていた。

— 凶作を救へぬ仏を売り残している

— もう綿くずも吸えない肺でクビになる
— 稼ぎ手を殺し勲章でだますなり

ナツプの詩人森山啓や榎村浩、竹村和夫らは反体制、反軍の叙事詩を必死にうたいあげたが、鶴のこの種の批判川柳作品は鋭利なメスのように寸鉄風刺の冴えを發揮した。

このように大八が、鶴彬の句がファシズムを推し進める為政者への呪いであり、その為政者により苦しんでいる可哀そうな庶民への鎮魂の句であると表現しているのは、鶴彬の句が、おそらくは生前には面識のなかった大八にも、強烈なインパクトを与えたという証拠であろう。

同時に大八は鶴彬に人間的な温かさも見つけている。川柳のリアリズムを追究した鶴彬は、哲学的な新生命主義を唱える田中五呂八と激しく川柳論を戦わせた論敵であったが、鶴彬が五呂八の死に対して「惜しみなき慟哭の想い」を綴った論評に大八は感動している。

— 前略 — だが鶴はこの好敵手の業績を讃えてやまなかったのである。鶴は強烈な反軍思想の底で民衆を限りなく愛したのと同時に、死に誘われた論敵にも深い理解の眼を情動的にそそぎかけていた。人間鶴彬の真実の姿がそこにあった。— 後略 —

大八は、鶴彬をプロレタリア川柳作家、反川柳作家としてのレッテルを貼るのではなく、人間鶴彬として高く評価している。

大八は鶴彬が最後に詠んだ代表句も紹介している。

— 手と足をもいだ丸太にしてかへし
— 高梁の実りへ戦車と靴の鋏
— 屍のゐないニュース映画で勇ましい
— 出征の門標があつてがらんだ店の小
— 万歳とあげて行った手を大陸において来た

しかし、全六句のうち最後の「胎内の動き知るころ骨がつき」だけは割愛されている。理由は分からない。「川柳の群像」の監修者である田辺聖子は、『川柳でんでん太鼓』の中で、「胎内の動き知るころ骨がつき」の句を紹介しているため、田辺が意図的に割愛したとは考えにくい。おそらくは、大八自身が何か思うことがあって、あえて割愛したと考えるのが妥当だろう。では、なぜ割愛したのか。

大八は戦後、娘二人にも恵まれ幸せな日常を送ったようである。大八の娘は『川柳の群像』の最後に「父、大八のこと」として、次のように記している。

—前略— 右腕一本になっても父は生来の明るさで大工仕事も器用にこなし、本箱や椅子を作ったりした。私達姉妹は父が片腕という事をあまり意識せず育ち、そう思わせないように育てた父も偉かった。—後略—

ふつくらと幸せの日が丸くなる 大八

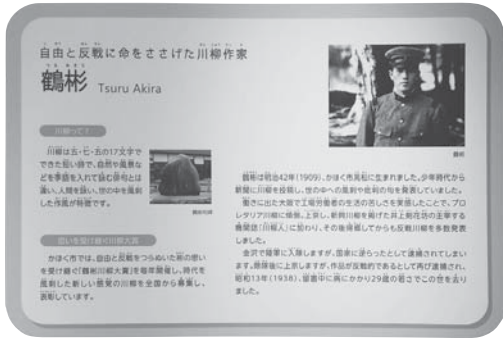
腕が一本なくなっても、命さえあれば自分も家族も幸せになれる。しかし、M新聞社のKのように父親が死んでしまつては、残された家族は悲惨である。大八は、父親が骨になって返された母子家庭を数多く見てきたに違いない。大八にとって、胎内の句が「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の句より痛々しかったに違いない。だから胎内の句を割愛したのではない。そう私は勝手に想像している。

うみつこらんど七塚 海と渚の博物館
新設 かほくふるさと展示室

鶴彬のパネルも紹介

昨年、うみつこらんど七塚「海と渚の博物館」の一角（1階無料ゾーン）に、「かほくふるさと展示室」というコーナーができ、かほく市の偉人コーナーで鶴彬もパネル展示されているというので、さっそく行ってきました。

900万円の予算。全体のスペースは狭く、鶴彬のパネル(写真)も小さく、「たった、これだけ？」というのが第一印象。鶴彬は、「自由と反戦に命をささげた川柳作家 鶴彬」という見出し。解説には「(大阪から) 帰郷してからも、反戦川柳を多数発表」や「国家に逆らつたとして逮捕」という、事実でないことが書かれてある。何を参考にしたのかわ



りませんが、これを書いた人は鶴彬の基本的なところから理解しておらず、鶴彬の川柳すら目を通したこともないということが一目瞭然でした。せめて鶴彬の代表句を紹介してあげればよかったです。一句もないのはどういうことか。以上、辛口コメントになりましたが、かほく市ができて10年余りたちますが、行政として鶴彬の展示をしたことはありませんでしたので、大きな第一歩だと思います。

また、かほく市内には、上山田式土器で有名な上山田貝塚(縄文遺跡)をはじめとし、気屋遺跡(縄文遺跡)、大海西山遺跡(弥生遺跡)などがあるにもかかわらず、出土品は何十年も倉庫に眠っていた状態でした。3年ほど前、宇部功先生をかほく市の縄文と弥生遺跡に案内させてもらったときも、出土品をお見せすることができず、残念に思っていました。しかし、今はこの展示室の片隅に、ほんのわずかではありますが、土器や石器、そして珍しい土偶も並べてあります。特に地元の子どもたちにとっては、歴史を身近に感じることができるので、これも大きな一歩であると感じました。

私が来館したときは、休日にもかかわらず、誰もいませんでしたが、「海と渚の博物館」は、ときどき市民の作品の展示場としても利用されますので、これを機会に、市民に鶴彬のことも知っていただけたらと思います。

休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は、その翌日)、年末年始(12月29日〜1月3日)
 (寺内徹乗)

宇部先生特別授業の感想文Ⅲ

かほく市立高松小学校6年(順不同)

二〇一九年6月28日午前中に高松小学校、午後には大海小学校で当時6年生に、宇部功先生による鶴彬の特別授業がありました。この授業も昨年で5年目となります。この感想文は前回の続きです。

かほく市立大海小学校6年(当時)

●胎内の句 家族の悲しむ顔が浮かぶ

《盛戸 悠真》ぼくは鶴彬さんの「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳の意味を知りました。その意味はともおそろしくて、もいだというのは無理にとるという意味で手や足をむりやりとり丸太みたいにしておかえすという意味だそうです。とてもぞつとしてこわかったです。ほかに戦争の様子を伝える川柳はいろいろありましたがその中でも印象に残ったのは「胎内の動き知るころ骨がつき」という句です。その意味はもうすぐ子どもが生まれるというのに、父さんの骨が渡されるとい意味だそうです。骨が入っているだけじゃなく石が何個か入っているだけの人もいたことを教えてもらい、家族の悲しむ顔が頭に浮かびました。

鶴彬さんの川柳について知るほど、戦争をなくすためにぼくたちは何ができるかを考えることが大切だと思います。

●自分のことより他人に伝えること選ぶすこさ

《山本 莉子》私は「鶴彬さん」という戦争のことをたくさんの人に伝えようとしたすごい人がいることを初めて知りました。鶴彬の何がすごいかというと戦争はしてはいけないと反戦のメッセージがこもった川柳を残したところなんです。声に出して戦争なんかしたらだめだということはいはされる時代なのに、自分のことより他の人に伝えることをえらんだことがとてもすてきでした。一つ一つの句に、言葉に鶴彬の思いがこめられていることがすごいと思いました。私だったらぜつたいに無理です。鶴彬さんが伝えたかったことを受けつぎ、自分にできることを考えたいと思います。やっぱり戦争はこわいし、ぜつたいにはいけないことだとよく分かりました。

かほく市立高松小学校6年(当時)

●私たちがう時代のことを学べた

《西田 佳芳》私は今日の特別授業を受けて、とても勉強になった。「鶴彬」という名前は聞いたことがあったけど、どんな人なのか、どんなことをした人なのかは知らなかった。でも、今日の特別授業で少しでも分かることが増えた。戦争の中で生きるということ、とても怖いことだし、鶴彬さんの生きた時代と今の私たちとは違うことがたくさんある。たとえば、「戦争つてだめだね。」という発言や敵国の言葉を発しただけではないほされるのだ。今だと戦争はたくさんの人たちが亡くなってしまう危険なものだといわれて

いる。鶴彬さんはそんな危険な時代で生き、そして29才という若さで帰らぬ人となってしまったのだ。宇部先生のいつていた通り、鶴彬さんについては話しても話さきれないとても深い人物だと知ることができた。ありがとうございます。

●二十九歳で亡くなってかわいそう

《長谷川 蒼生》今日はつるあきらさんの話を聞いてとてもすごい人だなと思いました。理由は、まだ中学生のときとてもうまく書いた川柳を書き、有名人になったからです。でも昭和13年9月14日、たったの29才でなくなつてとてもかわいそうと思いました。ぼくはいつかつるあきらさんについて調べたいと思いました。

●中学生で川柳がのつてすごい

《坂井 徠翔》今回初めて鶴彬さんのことを学んで分かったことがあります。一つ目は彬さんは中学一年生のときに川柳を書き大人と同じところにのつたというのは、すごいことだと分かりました。二つ目は石川たくぼくさんにかかわりがあったことがとてもいいなと思いました。でもたくさんの川柳や俳句などを残して29才で亡くなつてしまったというのは、少し悲しいことだと分かったので、今回分からなかったことを家で調べてみたいなどと考えたので今回学んだことと結びつくようにしたいなと思いました。今回は本当にいい特別授業になったと思います。今回わざわざ遠い盛岡から来て下さった宇部先生本当にどうもありがとうございますという気持ちで

いっぱいです。
 (註・正確には「中学一年」ではなく「高等小学校」です)

●鶴彬の戦争への気持ちがわかった

《三井 麦二郎》さいしよは、「鶴彬って聞いたことある」という思いだったけど宇部先生の話聞いて鶴彬の「戦争に対しての気持ち」など改めて分かりました。時間があるときは、鶴彬さんについて調べてみようと思いました。

●戦争生活がまんしてすごい

《南 悠斗》鶴彬さんはいろいろなことを成し遂げてつらい戦争生活もひししにがまんしながらがんばってきたのでとてもすごいと思っただし、みんなとけんかもせずしてすごいと思っただし。

●自分も戦争をしてはいけないと伝えたい

《元木 優斗》鶴彬さんは戦争に行つて手も足もなくしてしまつてそれでも帰ることはできなくてつらい日を送つたということが分かった。

そしてその鶴彬さんの生きたのが映画になるくらいだったから自分も苦しいことやつらいことがあつてもがんばろうと思ひました。鶴彬さんは平和な世の中が良いと言つていた宇部さんから小さい戦争でも大きい戦争でも絶対してはいけないしそれで命を落としたりしてしまつていたから自分もできることをして戦争はしてはいけないということを

伝えようと思つた。

(註・鶴彬は戦争に行つて手と足をなくしてはいませんが、そういう人を川柳に詠みました)

●戦争反対を川柳で伝えたと分かった

《森田 隆太郎》高松にもすごい人はたくさんいるけど、鶴彬さんは29才という若さで亡くなつた。川柳を書いている人でその時は戦争で、日本では戦争反対のことを口に出してはいけなかつたので、かわりに川柳にして多くの人に伝えた人だと分かりました。

●戦争やめて 鶴彬の心の叫び伝わる

《由井 理央》鶴彬さんは、戦争中なかなか厳しいけど、「戦争をやめてほしい」と心の中でさけんでいたと思ひます。特に映画では日本が勝つた映画の場面しかないと分かりました。鶴彬さんは、こんなに色々な経験をして29才の若さで息をとじるのはまだ早いなど思ひました。鶴彬さんは、スバラしい人だと分かった。

●お母さんにも鶴彬のこと教えたい

《遠藤 大勝》今日のお話までつるあきらという人物はまったく知らなかつたけど、今日の話でつるあきらはとても平和主義でなにより戦争がきらいということがわかつたから、自分でも調べてみたいし、田中正三さんや謝野晶子さんのことも少しわかつたから調べてみたくなりました。今日の授業はとてもいい経験になつたからお母さんにも今日のこと

を教えたくなりました。ありがとうございます。

●手と足の句 日本中で有名ですごい

《大西 鈴音》鶴彬さんは、映画にもなつたほど有名な方ですごいなと思つた。鶴彬さんは中学生くらいから長い文などを覚えていてといつていたし、自分をぎせいにしても「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の川柳を日本中に広めていたのですごい人なんだなと思つた。それで29才という若さでなくなつてしまつたけれどその川柳がなくなつたらまだ戦争が続いていたらどうし鶴彬さんはとても重要な人物だつたんだなと思つた。宇部先生のおかげで鶴彬さんに興味を持つたので良かった。

(註・鶴彬の川柳によつて戦争が早く終わつたわけではありませんが、未来の戦争の歯止めになつてほしいという思いも込め、そのまま掲載しました)

●自分の思い文字に残して伝えてすごい

《岡田 絢菜》今日の特別授業で、鶴彬さんのことをすごいと感じました。理由は、2つあります。

一つ目は高松出身だと知つてびっくりしました。戦争はぜつたいにいけなかつたと思ひながら口に出さずにいたことがすごいと思ひました。

二つ目は、川柳のように自分が思つたことを文字に残してみんなに伝えようとしていたからです。

今日の授業で鶴彬さんのことがいろいろ知

れたので、とても勉強になりました。

●速捕されるのに発表 すごい度胸

《岡田 幸太》鶴彬さんは川柳だけではなく「戦争なんかしちやいけな」と口に出してしまえば速捕される時代に「川柳人」というのを発表してすごいなと思った。速捕されることを分かって発表したのはすごい度胸だなと思った。鶴彬さんの川柳はいろんな場所にかざられていて5つもあるのですごいなと思った。

鶴彬さんは30才にもならず命を絶ったけどそのあいだにとでも努力してこれほど作品を残したのですすごいと思った。ぼくも川柳じゃなくてもいいからそれほどの努力をしてがんばりたいなと思った。

●戦争をやめよう 全国に広げることが大切

《岡田 悠》今まで道徳などで戦争は絶対にやっつけてはいけないということ学んできた。ぼくは今日鶴彬さんのような人がいたから戦争が終わったと思う。なぜなら戦争をやめようと全国に広める人がいないといっこうに終わらないと思うからだ。そして、このことを全国に広めるために自分の命をぎせいにしてもやる鶴彬さんは本当にすごい人だなと思った。そして、この鶴彬さんのことをサポートしていた人もすごいと思う。今日、この話を聞いていろんな人に興味を持つことができた。

●鶴彬に興味がわいた もっと話聞きたい

《岡山 久瑠美》最初は鶴彬と聞いたことがあったけど、あまりしらなくて分からなかったけど分かりやすく説明してくれてとてもうれしかったです。この話を聞いて少し興味を持ちました。鶴彬とかかわった人たちのことも知れてとてもよかったです。もう少しだけ聞きたかったけど時間がなくて聞けなかったのも、もし、また来ることになったらもう一度話を聞きたいです。そして、ティッシュケースを手作りでつくってくれてありがとうございます。今日は、鶴彬さんのことを教えてくれてありがとうございます。

●自由にものが言えない時代の大変さ学ぶ

《沖野 碧依》宇部さんの話を聞いてあらためて戦争のおそろしさを知ることができた。「鶴彬」という名前がきいたことがあったけど、今日鶴彬さんがどんなすごいことをしたのか初めて知ることができた。宇部さんの話を聞いて地元高松出身ですごいことをした鶴彬さんのことをもっと知りたくなった。戦争のつらさ、自由に物事を言えない大変さなどを知って鶴彬さんが後世に残していったことはとてもいいと思った。私も正しくないと考えたことは正しくないとと言える人になりたかった。

●鶴彬のあきらめない根性をみないたい

《沖野 永絆》戦争の時は「戦争つてやだよね」とか英語の歌をうたったら、すぐろうや

に行かされるという時代だったから、現在はすごいいろいろしをしているんだとあらためて実感した。鶴彬さんは、戦争の時は本当は川柳などを書いたらすぐけいさつにつかまるのに鶴彬さんは、がんばって書き続けてそれが映画になるぐらいすごい人だとわかった。最後に鶴彬さんは、根性があつてあきらめない人だと分かった。ぼくも鶴彬さんのようになりたい。

●鶴彬と同じ地元でよかった

《桶谷 瑞希》「鶴彬」と言われ、私は「だれ？」と思いました。鶴彬さんは、川柳作家ということが分かりました。「戦争はダメ」など言葉の自由がなかった時代にみんなに正しいことを気づいてもらうため、自分をぎせいにしていたので、すごい人だと分かりました。鶴彬さんは29才という短い人生でしたが、たくさん川柳をかいていたので、私とはぜんぜんちがう人だと思いました。私はこの時代に生きていたら、鶴彬さんのように立ち向かうのではなく、まちがいなくにげていると思います。高松出身の人、鶴彬さんは、やっぱりすごい人だと思えます。この授業をして下さり地元の人としてよかったと思います。この授業をして下さりありがとうございます。

●手と足の匂 怖いと感じた

《梶 はじめ》自分が速捕されるかもしれないのに、「戦争に反対」という声を川柳で発表した鶴彬はすごいと思う。僕たちは自分の身を危険にさらしてまで、川柳を発表はしな

いだろう。「手と足をもいだ丸太にしてかへし」は、本当の意味を知ると、とても怖かった。戦争で手足を失って地元に戻ってきたら誰だって怖いだろう。また今度、他の鶴彬の川柳について調べてみたい。戦争についてかかれていないものや今回の6こ以外にまだあるかもしれない。

●高松にこんなすごい人がいたなんて

《黒川 青波》高松にこんな人がいてすごいと思つたし、たくさんのことを知ることができたし、今度鶴彬さんのことをしらべてもつと彬のことを知りたいです。田中正造さんもすごい人だし、田中正造さんのこともくわしく知りたいのでインターネットでしらべてみます。このようなきかいはないので、手作りでもらつたティッシュケースにティッシュを入れていただきありがとうございます。

●今自分がやらなくて誰がやるー鶴彬すごい

《香林 芽生》鶴彬さんの名前は聞いたことはあつたけどどんな人なのかは知らなかつた。鶴彬さんは、戦争はしてはいけないという意味で川柳を書いた。この時代は戦争のことを話しただけで逮捕されてしまうと知つた。そして外国の言葉を出してはいけないと知つた。こんなに苦しい時代なのに鶴彬さんは「今自分がやらなくてだれがするんだ。」と言つて逮捕が目に見えてるのに川柳を書いて、つかまつてとてもしない人だと思つた。鶴彬さんが書いた川柳には、とても深い意味がこめられていると知つたのでこれからも鶴彬さんのことを調べたいと思つた。

●来てくれて先生ありがとうございます

《小川裕也》今日あついののきてくれてありがとう。つるあきらさんのおはなしはこわいけど、おしえてもらえてよかったです。えいがにもでていた。もういつかいききたいです。

令和二年度

令和三年二月五日

つとものつとろ 五・七・五 年間大賞

宇部 功選

ひと言が凍てつく心とかしてく

一本木中一年

山崎 碧斗

春休み楽しみになる新学期

玉山小四年

山崎 心花

休み明けなまけ心にムチをいれ

一本木小四年

山崎美優花

ねむれないママのおふとんもぐりこむ

城北小一年

むらかみはると

元気よくいえをとびだす月曜日

二年

はたけやまかんだ

夕焼けのうすオレンジが祖母の色

四年

土田 雪乃

ウイルスをとばしてほしい空高く

四年

双木 杏香

遊びこそ未来の自分つくつてる

五年

昆来 瞳

高齢化増えていくのは休耕田

六年

山下 美音

どん底を知ってやさしさ発芽する

六年

内館 遥

お茶どうぞ雪かきしてる母を呼ぶ

六年 小山内七海

夜になりフクロウ鳴いてへいわだな

三年 佐々木しゅうた

ドアノブにコロナと電気おそるべし

四年 小笠原凛桜

しかるのは君のためだとこわ顔

四年 本田 るり

だんごむし木の葉の下で一休み

六年 藤原 千尋

今日のこと母と話していい夜長

五年 佐々木泰我

回転寿司おさらのたかさせいくらべ

一年 角川目彩香

夜ご飯食べるといつも眠くなる

四年 関 瑛翔

ありがとうそのやさしさに倍返し

四年 工藤 美歩

山火事だしようぼうへりが空をとぶ

二年 田澤 拓人

けずられて姿を変える川の石

六年 田村 恭奈

墓石を買うと心が痛くなる

六年 三田地恵汰

風邪を引き優しい味のスープ飲む

六年 山下ひなた

また充電母のスマホは弱つてる

六年 上川 華和

缶けりにちよつと不向きなアルミ缶

六年 山形小六年 下館 春稀

四時なのにキッチン奥もう電気

五年 上村 慧

岩手県盛岡市の宇部功氏からおくられてきた子どもたちの川柳です。

■読書リレー（第一回） 武田 裕一

①『だから鶴彬 抵抗する十七文字』

（棚沢 健 春陽堂）

しなびた胃袋にやらう

鬼征伐の

キビ団子！

一九三四（昭和九）年

この川柳は、発表の十年前に書かれた芥川龍之介の『桃太郎』一九二四（大正十三）年をもとにしています。

②『桃太郎』

『蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ』

芥川龍之介・岩波文庫に収録）

犬・猿・雉もみんなとキビ団子半分で鬼退治に行かされます。また鬼退治で猿は鬼の娘を凌辱します。

③『昭和史一九二六—一九四五』

（半藤 一利 平凡社）

一九二一（大正十）年、芥川は、中国旅行のルポルタージュ『志那游記』を書きました。学校を參觀した時、排日のために日本の商品である鉛筆を使わず、墨をすって筆で学習していることや、女学校の寄宿舎に兵卒が乗り込んで強姦した事を知ります。その三年後、芥川は、桃太郎を日本の軍国主義、鬼を中国にたとえて書いたのでしょうか。

「昭和史の諸条件は常に満州問題と絡んで起こります」（二十七頁）

—鶴彬・交流の広場—

《大河原さき様からのお便り》

鶴彬を顕彰する会の皆様

今年も残り少なくなりましたが、皆様お元気でご活躍のことと思います。

先月十四日に水口裕子さんと資料室をお訪ねした者です。その節はご丁寧にご案内下さいまして、ありがとうございます。お礼状を、と思いながら師走となつてしまいました。

鶴彬について知ったのは、水口さんと沖縄の辺野古の埋め立てに反対する座り込みに参加した時でした。内灘闘争のことと共に、隣のかほく市に、反戦の川柳を作つて投獄され、獄死した鶴彬という川柳作家がいたと聞きました。その時まで鶴彬について、全く知りませんでしたので、どのような人だったのか知りたいと思っていました。

資料室で知った鶴彬はとても魅力的な人で、壁に貼つてある年表からも、その人となり浮かび上がってきました。

短い生涯に千句以上もの句を作つていたことは、驚きでした。初期の句は、詩のような広がりがあり、社会や戦争を詠んだ句には、十七文字の中に鋭い視点や洞察、戦争の犠牲者に対する深い悲しみと、為政者への怒りもこもっていると感じました。

才能があり、強い人権意識を持ち、社会状況への鋭い問いを發した人が、日本が戦争になだれ込んでいく中で、治安維持法で検挙されて獄死する様は本当に痛ましく、生きていれば日本の政治や文化に、大きく貢献したであろうに、当時の誤つた指導層の犠牲になつたと、悔しく思いました。

反政府的な活動をすれば、検挙されて投獄されるといった軍国主義の時代に、虐げられていた弱い立場の人たちの苦しみを我が事として闘つた姿に尊敬の念を持ちました。

帰つてきてから、いただいた資料などを読み返し、鶴彬の時代と現在が色濃く重なるように思えてきて、過去の軍国の時代に遡つて行かないように、当時のことをもっと知らなければと思うようになりました。

鶴彬を顕彰する会の皆様が、貴重な資料を集め、手作りで資料室を作り、維持している地道な活動に感動しました。

学校では鶴彬の副読本を作り、市を挙げて鶴彬を顕彰し讃えていることには、皆様の日頃の活動があるからこそ、と思いました。国に検挙されて獄死した人の偉業を讃えることは、なかなか自治体としてはやりたがらないことでしょうか。鶴彬の精神を後世に伝えるためにも、皆様の活動は大切なものだと思います。

寺内徹乗さんの絵本『鶴彬の生涯』を読み、鶴彬を理解する一助となりました。お若

い方が会のメンバーに居るのは心強いですね。

原発事故後、福島では様々な問題が起きていますが、私はその中でも原発事故により避難した人たちの住宅や生活の保障がなされていない問題や、甲状腺がん多発の問題、汚染水の海洋放出に反対する動き、などに関わっています。

軍国時代のように暴力的なやり方で、反対する者を排除するということはしませんが、裁判によって避難住宅を追い出そうとしたり、漁業者の強い反対があっても、海洋放出しようとするなど、被害者無視・人権無視の基本的な考え方は、戦前と変わりありません。

今回、顕彰する会の皆様の活動を知り、鶴彬の精神を継承する形で戦争への道をくい止め人権を守る活動を続ける方たちがいることを心強く思いました。

皆様、これからもどうぞお元気で活躍下さい。

来年はコロナが終息して、よい年となることを祈ります。(乱筆、乱文、お許し下さい)

二〇二〇年十二月二十一日

大河原 さき



前列左が大河原さん

物販のコーナー

鶴彬 こころの軌跡

平和のために生きぬいた婦人の魂

鶴彬 こころの軌跡 神山様二部監督作品

神山様二部監督作品

戦争へと向かう旅路に立ちふさがる、母と娘の絆

主演：神山様二部、高橋あづさ、高橋あづさ、高橋あづさ

DVD 1,800円

「鶴彬 こころの軌跡」のDVD

販売価格…二〇〇〇円(送料込み)
発売・販売元…鶴彬を顕彰する会

ドキュメンタリー映画「鶴彬 こころの軌跡」の上映運動が全国展開されてその二年半

後には、90会場を超える劇場・施設で上映されました。

これからもまだまだ各地で機会あるたびに上映されていくと思いますが、このDVDが発売されることにより、上映会が行われなかった地域の方にも見て戴けることとなりました。

まだご覧になっていない方はもちろん、すでに上映会に足を運ばれた方も、折に触れて何度でも「鶴彬精神」に接していただきたく存じます。

「鶴彬 こころの軌跡」DVDをご希望の方は、下記口座へDVD代金 二〇〇〇円を振り込み、「鶴彬を顕彰する会」(TEL・FAX・・〇七六一二八一―二〇一/小山)まで、申込書をFAX、または郵送下さい。

郵便振替口座・・0074015175480
加入者名・・鶴彬を顕彰する会

振込手数料はご負担下さい。通信欄に注文内容とお届け先を明記して下さい。
振込が確認出来次第、DVDを送りたいします。

以下に紹介しています『絵本 鶴彬の生涯』や『鶴彬 こころの軌跡』のシナリオも、DVDと同様の方法でお申し込み下さい。



『絵本 鶴彬の生涯』(文・絵 寺内徹果)
販売価格・・一五〇〇円(送料込み)

鶴彬は37年に治安維持法で検挙されて獄死しました。絵本はA4判47ページ。29年間の短い人生を21枚の絵に文章を添えて表現しています。28歳のときの反戦への思いを込めた「屍しかばねのいないニュース映画で勇ましい」をはじめ、戦争の悲惨さを詠んだ「手と足をもち



『鶴彬 こころの軌跡』の再録シナリオ
販売価格・・七〇〇円(送料込み)

映画のシナリオだけではなく、撮影日誌、神山征二郎監督の制作ノートやエッセイ(「手弁当映画」顛末記)や映画に出演された役者たちのエッセイ、澤地久枝氏(作家/「九条の会」呼びかけ人)や深井一郎氏(金沢大学名誉教授)による論説などが掲載されていて、内容が非常に豊かで大変読み応えがあります。

だ丸太にしてかえし」「胎内の動き知るころ骨がつき」などの33句を紹介しています。
年表や鶴彬を支えた川柳家の井上劍花坊・信子夫妻、県内外の鶴彬の句碑などの写真も載せています。

■ 第9回鶴彬のふるさと

「高松歴史街道フェスティバル」

※期間 9月11日～9月20日 (顕彰期間)

1 映画上映 (浄専寺)

- ・開催 / 9月11日 (土)
- ・時間 / 午前・午後

※コロナの感染状況次第で中止となる場合もあります。

2 第4回「墓碑法要の集い」

- ・開催 / 9月12日 (日)
- ・時間 / 午前10時～閉式10時半
- ・会場 / 浄専寺

3 第23回鶴彬をたたえる集い「碑前祭」

- ・開催 / 9月12日 (日)
- ・時間 / 午前11時～閉会11時半
- ・会場 / 歴史公園

4 第9回鶴彬のふるさと

「高松歴史街道フェスティバル」

- ・開催 / 9月19日 (日)
- ・会場 / 高松産業文化センター中ホール

*第8回かほく市民川柳祭

- ・時間 / 受付午後1時～
- ・「あんどんの灯り」で / 入選作品展示
- ・開会 / 午後1時半
- ・表彰 / 市民川柳表彰式

ポスター 展表彰式

5 「鶴彬」鶴彬冠川柳大会

- ① 第8回かほく市民川柳祭
- ・作品募集期間 / 6月1日～7月10日
- ・表彰式 / 9月12日

・会場 / フェスタ会場

② 第26回鶴彬川柳大賞

- ・開催 / 8月29日 (日)
- ・作品募集期間 / 6月20日～7月31日
- ・発表、表彰式は 9月12日 碑前祭にて

③ 第34回鶴彬忌川柳大会

【中止】

6 鶴彬普及活動

- ① 「鶴彬通信はばたき」
- ・ 3 回発行予定 4月・8月・12月
- ② 資料展
- ・ 9月 高松産業文化センター
- ・ 11月 市内公共施設展示場
- ・ 1月 県展示施設
- ③ 資料室の活用
- ・ 展示資料整備、運営見学の対応、物販活動

■発行 鶴彬を顕彰する会
 ■事務局 〒929-1215 石川県かほく市高松キ5 (小山 広助 気付)

■TEL・FAX : 076-281-1201
 ■E-mail : turuakira@yahoo.co.jp
 ■ホームページ : http://tsuruakira.jp/

会員募集 (随時受付)
 年会費 2,000円 (団体3,000円)

「鶴彬通信 はばたき」

購読料 1,000円/年
 郵便振替口座 00740-5-75480
 加入者名 鶴彬を顕彰する会

編集後記

鶴彬を顕彰する会事務局 平野 喜之

今回から、事務局の武田裕一さんの連載が始まりました。武田さんは、私と同じ浄土真宗の僧侶です。御法話の中で時々、鶴彬について触れられることがあったので原稿を依頼したところ、快く承諾していただきました。これからの「読書リレー」の連載、楽しみです。

私は事務局長という仕事を遠田さんから引き継ぎましたが、会計についてはただ小山さんからの報告をお聞きするばかりで、実際は何も関わっていません。会計の仕事はすぐに引き受けられるほど容易な仕事ではないからです。

小山さんから会計報告をお聞きしていると、この顕彰会がいかにかに財政難に陥っているかがよくわかります。財政難の原因ははっきりしていて、県と市の補助事業をしてしまったことと、会員の高齢化です。お亡くなりになられた方もいらつしやいます。県と市の補助事業については今後しなければ済む話ですが、会員の高齢化だけはどうすることもできません。

この財政難を乗り越える一番いい方法は会員を増やすことです。身近な人に是非、この「はばたき」の購読を勧めてほしいです。そして、会員になるように積極的に呼び掛けていただきたいです。何卒ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。